

◎R7年度も園や小学校、中学校におじゃまする機会をいただきました

★読み聞かせでの気づき 鏡島保育園

月1のペースで伺い、回を重ねるごとに、子どもたちの聴く力やお話の世界に入り込む集中力が増していくのを感じました。子どもたちの力は素晴らしいと感じる瞬間でもあります。「今日は何を読んでくれるの？」と楽しみにしてくれる子どもたちの笑顔が、とても嬉しかったです。お忙しい中、子どもたちをしっかりと見守りつつ一緒に読み聞かせを楽しんでくださる先生方のお姿に、いつも励まされます。そんな先生方のお姿が、子どもたちの心の安定、安心にも繋がっていると実感します。



絵本が大好きな子どもたち

★読み聞かせの仕方について

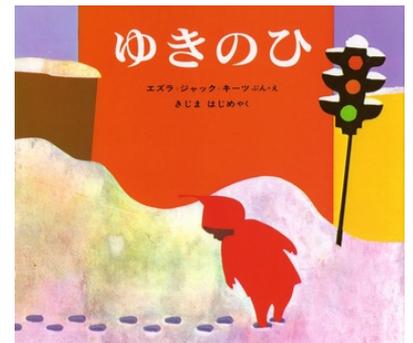
「演じたり声色を変えて大げさに読まない子どもたちに受けられないし、楽しんでもらえないのではないかと不安になる」というお声を度々お聞きします。私はむしろ、子どもたちの想像する力をできるだけ邪魔しないよう、演じず、ゆっくりと、「本を届ける人」に徹して読むことを心がけています。だからこそ、子どもたちの力を信じて、自らの力でお話の世界に入り、考えることができる本を、時間をかけて選書しています。



◎冬のおすすめ絵本 『ゆきのひ』 偕成社 エズラ=ジャック=キーツ/ぶん・え きじま はじめ/やく \*1963年コルデコット賞受賞作品



冬のある日、ピーターが雪で遊ぶ様子が描かれています。雪に足跡をつけてみたり、棒で線を引いてみたり、雪だるまを作ったり、雪山を滑ってみたり、雪の感触を全身で楽しみながら心ゆくまで遊びます。そして明日遊ぼうと、念入りに作ったかたい雪だんごを大切にポケットにしまうのでした。家に帰ったピーターは、お母さんに雪の中で冒険してきた事を話し、お風呂で温まりながら、何度も何度も思い返しました。ピーターにとって、この上なく楽しい特別な1日だったに違いありません。



子ども時代は長い人生の中で特別な時期と言えると思います。毎日が新しい驚きと発見に溢れていて、「今、ここ」を精一杯生きているからです。大人のように決まった価値観や固定概念にとらわれることなく、自由な発想を持ち、想像力を働かせて世界を思い描くことができるのです。一夜にして街を真っ白な世界にしてしまう雪は、子どもにとって天からの美しいギフトのように感じられるのでしょう。



『ゆきのひ』の中のピーターは、「子ども」そのものであり、それは遠い昔の日の自分でもあることに気づかされます。読むたびに共感と懐かしい気持ちで満たされます。家読にもおすすめの1冊です。

★読み聞かせボランティアについてのアンケートをメールで送らせていただいております。年度末でご多用の中大変恐縮ですが、ご回答をよろしくお願いいたします。

★「読書賞」のご報告とおすすめ本の紹介文の締め切りは2月末とさせていただきます。紹介文が負担な児童生徒さんは、出版社、タイトルのみでもかまいません。また名前は本名でなくてもペンネームでも良いです。そのままご紹介させていただきます。

